

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農者 サポートチームによる経営状況の確認

2月3日から9日にかけて、農業普及課と郡上市役所、農業委員会、JAめぐみの、県アグリチャレンジ支援センターからなるサポートチームにて、就農5年以内の新規就農者9名の経営状況の確認を行った。

このうち6名は夏秋トマト経営であるが、他に水稻や畜産経営に取り組む新規就農者もあって、聞き取り対象は幅広いものとなった。

聞き取りは面談方式で行い、経営改善計画の目標をクリアできていない新規就農者に対しては、問題点を共有して改善対策の提案を行った。

農業普及課では、引き続き就農して間もない新規就農者に対して、関係機関と連携したサポートチームにて支援を行う。



【サポートチームにて
経営状況の聞き取り】

■指導農業士 新規就農者らに農業の心構えを講演

2月4日、JAめぐみのが主催する新規就農者並びに就農予定者を対象とした全14回の「新規就農者集合研修」の最終講義として、郡上地区指導農業士会の鷲見誠会長が、農業に対する心構えについて講演を行った。

講演では、就農から現在の品目に至った経緯や法人化などについて話され、自ら市場に出向いて情報収集する大切さや従業員にいかに関わりよく働いてもらうかが重要といった新規就農者に必要な心構えを語った。受講生である新規就農者らは、今後の農業経営の参考にすべく、熱心に聴講していた。

農業普及課では、新規就農者への技術指導はもちろんのこと、地域の担い手リーダーである指導農業士らとの結びつきを支援し、彼らの営農定着を図る。



【指導農業士が
新規就農者に講演】

■青年農業士 webにて高校生に農業の現場を紹介

2月17日、青年農業士の藤村和矢氏が、郡上高校の園芸科学科2年生20名と総合農業学科群1年生56名に対して、「あなたの知らない畜産の世界」と題して、自らが行う和牛繁殖経営の様子を紹介した。

これは、高校生に実際の農業経営を学んでもらおうと県事業「農業の現場を学ぶ出前講座」により実施したもので、郡上高校では毎年、市内の青年農業士が講師を務めている。

昨年度は、新型コロナの影響で中止となったが、今年度はリモートにて学校と各生徒の自宅を結び開催した。藤村氏も初めてのリモートで戸惑いもあったようだが、「和牛繁殖は、休みも少なく大変な仕事だが、儲かるし、楽しい。」と生徒へ熱心に語り、生徒からは終了後のアンケート調査で「初めて聞くことも多く興味深かった。」との回答が寄せられた。

農業普及課では、今後の青年農業士の活動を支援するとともに、次に続く若い農業者の育成について、関係機関と連携して取り組む。



【青年農業士がリモートで
高校生に講義】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■農業経営 高鷲地域にて農業簿記勉強会を開催

農業普及課では、J Aめぐみのと連携し郡上市高鷲地域の農業者を対象として、農閑期に農業簿記の勉強会を開催している。

今年度は、1月13日～3月10日の間に計7回開催予定で、だいこん、夏秋いちご、花きなど様々な品目の農家が参加し、簿記記帳ソフトを利用してパソコン簿記に取り組んでいる。

勉強会は、農業普及課とJ Aの担当者がマンツーマンで指導しており、継続して開催することで参加者のパソコン操作だけでなく、経営を見る目を養うことも狙いとしている。

農業普及課では、今後もパソコン簿記の記帳指導と併せて各農業者の経営状況に基づいた改善を支援する。



【パソコンでの簿記記帳を指導】

■夏だいこん ひるがの高原だいこん生産出荷組合員の個別面談を実施

2月2～4日にかけて、ひるがの高原だいこんの各生産出荷組合員とJ Aめぐみの、農業普及課による個別面談が開催された。

面談では、今年の作付け計画の確認と土壌診断結果に基づく施肥資材や施肥量の確認が行われるとともに、農業普及課からは、生産者自身によるGAPの自己チェック結果に基づく改善方法への助言や、前年度の農薬使用履歴に基づく防除の改善提案を行った。

農業普及課では、ひるがの高原だいこん産地の出荷量の維持・拡大に向け、今後も生産組合の活動を支援する。



【面談で作付け計画などを確認】